

## キックオフシンポジウム報告

千葉商科大学総合研究センター長 副学長  
基盤教育機構長

**寺野 隆雄**  
TERANO Takao

本学の総合研究センターが発足してちょうど一年になる。昨年度まで、経済研究所の名のもとで実施していた本学の研究体制を一新し、経済研究所・会計教育研究所・サステナビリティ研究所・遠藤隆吉研究所の4つの研究所から構成することとなった。この事情については、VIEW&VISIONの前号（Vol.56）で紹介した。

そして、本センターのおひろめを目的に、表記のシンポジウムを2023年9月30日に、AP日本橋にて開催した。シンポジウムのテーマは前号の特集にあわせて、「社会科学を総合した未来のデザインにむけて」とし、二部構成で、千葉商科大学の今後の研究の取り組みを報告した。

第一部は、3件の講演で構成した。当センター長・寺野隆雄が「社会科学の統合化を目指して-デジタル社会実験とは-」と題して、最近の社会問題解決にあたっては、総合研究センターの目指す社会科学・自然科学を統合するアプローチが不可欠であること、そして、そのためには、社会実験をコンピュータ上で実施するデジタル社会実験が重要となることを報告した。ついで、「サステナビリティ研究所」所長・笹谷秀光が「共創優位を実現するSDGs経営」と題して、SDGsを活用した研究・連携・発信の重要性を論じた。最後に、「遠藤隆吉研究所」所長・趙軍が「遠藤イズム」の醍醐味を発見する旅に出かけよう!」と題し、本学の創始者である遠藤隆吉の業績とそれを研究する意義について報告した。



第一部で挨拶と趣旨説明をする寺野総合研究センター長

第二部では、学習院大学・名誉教授で社会学の権威である遠藤薫氏と環境省自然環境局生物多様性主流化室長・浜島直子氏をゲストに迎え、副学長・橋本隆子の司会のもと、本シンポジウム全体のテーマである「社会科学を総合した未来のデザインにむけて」について、各研究所の所長と共にパネル討論を実施した。遠藤氏は、今後「技術の道德化」が重要となると指摘し、また、浜島氏は国益を超えた地球益を中心として自然資本を棄損しないビジネスへの取り組みを強調した。さらに、「経済研究所」所長・小林航、「会計教育研究所」所長・中村元彦も加わり、これからの本学の研究への期待を述べた。

シンポジウムに参加した方の感想には、「すばらしい構想に感銘を受けました」「たいへんな仕事を始めましたね」「先生の夢がかないましたね」など肯定的なものが多かったと感ずる。しかしながら「夢を形にする」のはこれからの研究活動である。既存の学問分野を超えて、学内外の方々とともに活動を活性化していく所存である。



第二部のパネルディスカッションの様子(右:学習院大学名誉教授 遠藤薫氏、左:環境省自然環境局生物多様性主流化室長 浜島直子氏)